

下記の学習目的において、各ブロック内の文章を読む際は、以下の文脈で記載されていると考えてください。

*レベル1 コースあるいは各講義の終わりには、受講生は・・・ができるようになる。

コースの目標		関連付けられた学習目的				
		1	2	3	4	5
A	雪崩の形成と発生の理解	雪崩の形成に必要な積雪特性の説明	雪崩の種類、留意すべき雪崩とその重要性の説明	雪崩の運動特性の説明	雪崩の発生につながる雪の破壊について概説	
B	雪崩ハザードとリスクに係る要素の理解	雪崩地形における人や建物などの曝露と脆弱性への影響を説明	雪崩ハザードへの曝露と脆弱性のマネジメント手法を説明	ハザードとリスクの構成要素の説明		
C	雪崩地形を識別・分類・分析	雪崩道の構成要素およびそれらの特徴を比較・対照	フィールドあるいは地形図や写真、PCで利用可能画像などを使った雪崩地形の分析	曝露区分システムを使い、ルートと地形を分類	安全性とデータ品質を最適化するルートの選択とサンプルサイトの特定	
D	山岳積雪の特性	シーズンを通して積雪の変化に寄与する要素を説明	測定可能な積雪特性の説明	弱層の形成と持続型弱層の重要性について説明	空間的多様性を生じさせるメカニズムの説明	観察された積雪データから留意すべき雪崩を特定
E	気象データの観測と記録	気象定点での観測と記録	フィールドでの気象観測と記録	遠隔地の観察と記録	基礎的な気象概念の説明	情報技術を利用し、天気予報の入手

F	積雪データの観察と記録	積雪特性の観察と記録	標準化された積雪テストの実施と記録	積雪観察で破壊の特徴を適切に分類	スノープロファイルの記録をグラフ化	積雪データの分析をハザード評価や意思決定の補助に使用
G	雪崩データの観察と記録	雪崩の破壊の規模区分システムを適応	発生要因と留意すべき雪崩の種類を適用して雪崩を説明	発生した雪崩の観察と記録		
H	雪崩ハザード評価で用いられるプロセスの説明と適応	雪崩ハザード評価で用いられる重要要素の説明	積雪と気象データの重要度を予測妥当性に基づいて説明	標準化されたJANの手順をハザード評価に適応	ハザード評価に危険度区分とハザード区分を適応	職場でのハザード情報を使ったコミュニケーション
I	リスクへの対処方法を適応	リスクへの対処に係る戦略を説明	雪崩地形での行動のための事前準備を適応	状況認知と適切なリスク軽減の概念を適応	人間の行動が意思決定にどのように影響を与えるかを説明	
J	標準となる安全手順をチームに適応	雪崩捜索救助のスキルに習熟していることを実証	雪崩安全計画（ASP）の重要点を特定	緊急時対応計画（ERP）の適用について説明	安全ブリーフィングを説明	日々のリスク・レビューに参加
K	雪崩業務従事者レベル1修了者の実践範囲の理解	雪崩業務における指導教育の在り方	プロフェSSIONALとして継続的成長について説明	雪崩業務従事者レベル1修了者の実習範囲の限界を理解	個々の実務記録を残すことの重要性を理解	

*それぞれの項目は、複数の座学やフィールドでの講習を通して構成されます。